

TENOHASI

てのはし

地球と隣のはっぴい空間・池袋

会報誌第26号 2013年9月8日発行



炊き出しの片付け班 8月10日

総会報告 & 2012年活動報告号

なぜホームレス者数が見かけ上		池袋でWAKUWAKU！！	1 2
は減った結果になったのか	2	池袋路上生活事情	1 4
活動報告&総会報告 1	4	最低限度の文化的生活	1 6
会計報告	7	寄付の御礼	1 9
活動報告&総会報告 2	8		

巻頭言

なぜホームレス者数が見かけ上は減った結果になったのか？

TENOHASI に集ってくださるみなさま、いつもご参加ご支援を心より感謝申し上げます。多くのひとの思いによってこの課題が解決されていくことを願ってやみません。さて、今回の巻頭言では、国の発表するホームレス者数が見かけ上減少している点について、何が起こったのかの論考をしたいと思います。

定義に違いがあることから生まれる間違い

「ホームレス」というと「路上生活者」のみをさすのは私たちの国だけかもしれません。欧米の多くの国では「住まいが不安定な人」も含めて「ホームレス」と定義しています（※ホームレス者の定義のない国もあります）。この定義の違いの結果、多くの国では安定した住まいや生活の実現を支援するのに対し、私たちの国では路上にいない状態にすることを目指すこととなります。支援が十分に行き届いているかどうかは別にして、前者は住まいを失いそうな人への支援も検討されるのに対し、私たちの国では、路上から見えない場所へと追いやれば解決される構造となります。次の事例（事実に基づいて加工しています）をご紹介します。

定義が路上生活者の場合の事例（読売新聞 7月 16 日夕刊コラム連載より抜粋）

「野宿になった時、初めて安心できたんです。おかしいでしょ？」
そう話す 40 歳代の男性は、16 歳で児童養護施設を出た。住み込みの仕事に就いたこともあるが、会社の都合で解雇されると住まいも失った。「会社にとって、私みたいな者は道具にすぎないんですね」。家族も親戚もなく、味方になってくれる人はいない。日雇いの仕事をして、日銭の額で簡易宿泊所やネットカフェなど寝る場所が変わった。40 歳を過ぎてそんな仕事も減り野宿が増えた。
河川敷に設けたテントが、荷物を置ける安心できる寝場所になった。「もう寝場所を探さなくてもいいんだ」とホッとしたという。
だが、そんな「安心」もつかの間。地域でイベントがあるたびに、行政の担当者から排除された。



事例の解釈

定義が欧米のようであれば、この男性はずっと以前から「ホームレス」だったということになります。もっと早く支援が受けられたかもしれません。私たちの国にはホームレス者を支援する法律がありますが、路上生活者を「ホームレス」と定義しているため、路上から見えない場所へ追いやるだけで解決したことになります。本人にとっては、国の用意した劣悪な環境を受容するか（「ホームレス」ではなくなる）、それを拒むかの2択しかない状況下に置かれる機会が多くなります。「保護」を拒否するなら排除するというわけで行政代執行がまかり通っていくことになります。

公園、河川、駅舎、路上からいなくなった人々

豊島区での10年前は、たくさんの人が駅舎で寝ていましたが、今は定期的に警備員がまわり駅では眠ることができなくなっています。また、高架下にはたくさんのフェンスが張られダンボールハウスを作ることができなくなりました。この結果、国がホームレス者を数える場所からはホームレス者が減りました。

路上生活化する人が減った要因もある

上記以外には労働構造（肉体労働から知識労働へ）の変化や生活保護が以前よりは利用しやすくなったこと、東日本大震災の影響で公共工事が増えたこと、貧困ビジネスの巨大化、新たに路上生活化する敷居が高まったこと、法律家たちの活躍などから路上生活化する人の減少があると考えられます。

もっとも残念なことは、国が行う調査によって「ホームレス」者が減ったと国が思い込んでしまうことです。この結果支援が行き届かなくなっていくし、不安定な生活をしている人たちへは支援が届かなくなっていく。私たちTENOHASIは、日々の活動を通してこの課題の解決を引き続き目指します。不勉強なことも多いため皆様のご意見を頂戴できましたら幸甚です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

TENOHASI 代表理事

精神科医 森川すいめい



2012年度 TENOHASI 活動報告&総会報告

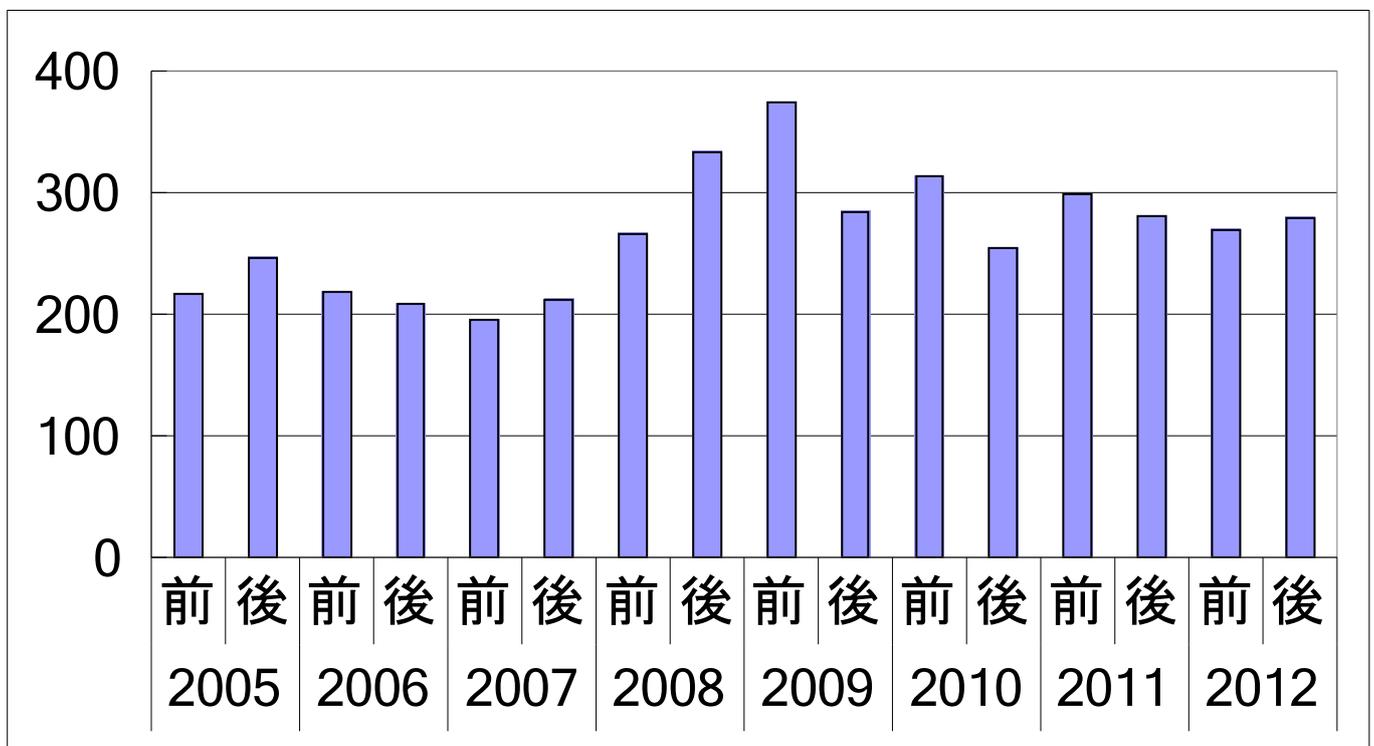
2013年6月3日に、総会を行いました。
そこでは、この弱小団体が抱えるいろいろな悩みが語られました。
各セクションからの報告と、そこで出た意見をご報告します。

炊き出し 毎月第2/第4土曜日

2012年度、TENOHASIの炊き出しに並ばれた方は合計延べ6591人、1回平均274、6人でした。一昨年度の285人、昨年度の290人と比べて微減というところです。

厚労省の「ホームレス」数全国調査では2007年の18564人から2012年の9576人へと半減したことになっていますが、池袋の炊き出しに関して言えばとてもその実感がありません。ここ8年間の人数の推移をグラフにしましたのでご覧下さい。

炊き出しに並んだ人数の変化 半期ごとの平均



炊き出し 毎月第2/第4土曜日

炊き出し調理班&片付け班

炊き出しの日の 11 時から 18 時まで、駒込大観音光源寺で炊き出し調理を行っています（光源寺のことはネットでは公開していませんのでご注意ください）。



2012 年度も光源寺さんのご厚意により一度も欠かさず食事が配れたことに感謝します。

最近調理に必要なボランティア 20～25 人は確保できています。

新 HP を見て参加してくださる新人さんが多いこと、コアスタッフのメーリングリストを作って出欠確認を事前に行っていることなどから、また、集合時間の 11 時に集まるスタッフもほぼ固定し、スタートがもたつくことはなくなりました。

高校生の「ヤング軍団」も人数の増減はあるものの、今年度も頑張ってくれ、「シルバー軍団」に肉体的精神的ゆとりを与えてくれていることは嬉しい限りです。

昨年度最大の課題であった夜の片付け班（20時半～22時頃まで）人数確保の問題は、呼びかけに応じて片付けだけ参加して下さる方も現れて、10人前後が参加して下さるようになりました。

ということで、人手の問題はひとまずクリアできています。

今後の課題は、毎回たくさん来て下さる新人さんをリピーターに、さらには固定スタッフになってもらうにはどうすればよいかということです。新人さんによくある「指示がないと動かない」方と「指示なしで勝手な判断で動く」方という両極端をどう解決していくかも課題です。

また、光源寺さんを TENOHASI のスペースだと思い違いしている人も見受けられ、“節水・節電”“通路の確保”“ゴミの分別”が徹底できていないのが現状です。チラシを用意していますが、コアスタッフが渡し忘れたり、渡されてもよく読まない方がいるため、空き時間などにミーティングを行い説明しています。

太田英一 岸田直子 阿部川弘

炊き出し公園班

炊き出しの日の 17 時から衣類・ドリンク配布、19 時から配食を行っています。

昨年度の公園班は、コアスタッフ・元路上生活の当事者ボランティア、そして新人ボランティアがバランス良く集まり、公園での活動をスムーズに行う事が出来ました。学校などから団体での参加があると、手が余ってしまう時もありました。

空き時間には新人さん向けの活動案内ツアーを行っていて好評ですが、新人が多いわりにはリピーターやコアスタッフの増加にはつながっていないと感じています。新人にどうアプローチしていくか考えなければなりません。

最近思うのは、炊き出しを手伝ってほしいのか、福祉活動を手伝ってほしいのか、それとも彼らの路上生活者に対する意識に一石を投じられればいいのか、といった目的によって方法を変えていかなければならないのでは、ということです。知らなければ興味を持ちにくいと思い、情報提供が重要だと考えてきましたが、それが有効ではない人も少なからずいるのではと思い直しています。

吉野朱美 小野田北斗

おにぎり作りと夜回り 毎週水曜日

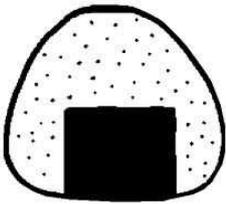
21時半からのおにぎり配布に並ばれた方の数は平均約71人で最高は5月23日の105人、最低は10月3日の24人でした。

並ばれた方の平均は、2009年の131人、2010年の105人、2011年の95人、2012年が71人と、こちらは順調に減少しています。

それでもリーマンショック前の2006～2007年は平均47人ほどだったことを考えると、まだまだ安心できません。また、若い方がたくさん並んでいる状況もリーマンショック後、変化がありません。

毎回、配布しているチラシを見て、自分から「シェルターに入りたいんだけど」と申し出る方が増え、多くの方が池袋駅前公園からボトムアップシェルターを經由して練馬寮（緊急一時保護センター）入所や生活保護受給などにつながりました。

清野賢司



おにぎり作り

配布するおにぎりは、ボトムアップシェルターで作る五目おにぎり、埼玉のグループホーム「和み」からの白米おにぎり、あさやけベーカリーの白米おにぎり&パンと、各団体が連携して約200食分を作っています。連携に感謝します。

最近では、おにぎりづくりメンバーはほぼ固定されています。そのため新人の参加はお断りしている状況です。

また、障害のある当事者・初参加の女性などに対する配慮が不足する場面などがあり、今後も継続的な注意が必要です。

吉野朱美 清野賢司

夜回り

夜回りで出会った路上生活者の数は平均約101人でした。

2009年が123人、2010年が126人、2011年が114人、2012年が101人と、ここ2年でようやく減少傾向が定着したようです。

しかし、池袋から路上生活者を排除する施策がどんどん進んでおり、「路上生活者が減った」というより「路上生活できる場所が減った」という面もあります。今まで段ボールハウスを建てることができた首都高速の高架下にはどんどんフェンスが張られ、銀行や公共施設の軒下には大型のプランターが置かれることが増えました。池袋駅の構内では、警備員が巡回して寝られないようにする通路が拡大しています。

池袋駅の内外で長く生活されていた「ベテラン」のうち何人かは、長年の関係づくりが成功して、路上からの脱却を果たしていただくことができました。

しかし、今も路上に残っている「ベテラン」はまだまだ何人もいらして、TENOHASI 発足前から路上にいらっしゃる古強者も残っています。私たちは、いつか路上からの脱出を果たしていただくことを目指してこれからも夜回りでの声かけ・おにぎり配布を続けていきたいと思っています。

夜回りボランティア

ベテランスタッフと新人さんが多数参加して下さり、人数が足りなくて困ったことはありませんでした。逆に、人数が多すぎて收拾がつかなくなったり、1人の路上生活者をたくさんのボランティアが取り囲んでしまうという問題も起きています。

夜回りは新人ボランティアの体験学習の場という面もあるので人数制限はしていませんが、どうしたら実践と学習を両立させられるか、今後の課題です。

清野賢司

2012年度 会計報告

2012年4月1日～2013年3月31日

費目	金額		主な内容	
	2012年	2011年		
収入の部				
前年度より繰越	1,832,429	1,744,436		
寄付金	4,908,410	3,998,621		
利子	255	324		
助成金	4,008,177	3,000,000	独立行政法人福祉医療機構	
合計	10,749,271	8,743,381		
支出の部				
炊き出し	食材等	380,754	765,759	食材・割り箸・井
	プロパンガス	181,938	212,817	
	イベント	39,646	49,363	夏祭り・クリスマスケーキ
	おみやげ	156,558	368,566	生活必需品パック(夏・冬)
	輸送	419,930	495,272	トラック経費・スタッフ移動費
夜回り	おにぎり夜回り	71,080	144,197	パック・食材・備品
生活応援活動	生活支援費	3,778,086	2,705,548	路上脱出のための生活費 ・交通費・スタッフ謝金
	光熱水ネット費	394,049	244,054	シェルター光熱水ネット費
	家賃	1,493,550	1,735,387	シェルター家賃
事務	事務	48,322	41,534	文具・郵送
	会議・研修	2,500	5,500	研修参加費
	会報誌	330,281	140,290	印刷・用紙・送料
	雑費	42,690	28,610	ボランティア保険等
	事務備品	0	0	
	金融手数料	34,095	2,205	
合計	7,605,269	6,939,102		
差引	1,311,573	59,843		
次年度へ繰越	3,144,002	1,832,429		

○2012年度を振り返って

収入 前年度より約200万円増加: 寄付金約490万円(前年度比約+93万円)は、ほとんどが個人から寄せられたものです。震災後の落ち込みから回復し、新記録を更新しました。ありがとうございます。

また、WAM(独立行政法人福祉医療機構)より約400万円(同+100万円)の助成(「世界の医療団」業務委託費として)を受けました。ただし、3年間助成を受けたのでこれで終わりとして通告されています。

支出 前年度より約66万円増: 翌年度から助成金なしでの運営が強いられることからすべての部門で経費節減に努めましたが、支援を受ける人が激増して生活応援活動の経費が増えました。

○2013年度の展望

今年度は助成金がないので、寄付金と繰越金に頼る運営となります。**寄付金を昨年より増やし繰越金を取り崩して600万円を確保し、支出を抑えられればTENOHASIはあと3年間は活動できます。みなさまのご支援が頼りです。資金カンパをぜひよろしくお願いいたします。**

生活応援活動とボトムアップシェルター

炊き出しや夜回りで生活相談を受けた方の路上脱出と、地域生活定着へのサポートをしています。

生活応援活動

2012年の前半は、もやい・お寺・教会などから新規に路上脱出支援を要請を受けることが増えて、嵐のように忙しく、経費も毎月10万円程度だったものが30万円以上に膨らむなど大変な時期でした。また、生活保護につながった後も、引き続き生活支援が必要な方、居場所や日中活動の場を求める方が多く、支援対象者は増えるばかりです。知的障がい・発達障がい・精神障がい(統合失調・うつ・強迫神経症など)、認知症、障がい名はつかないけれどなかなか安定した就労に結びつかない方…ありとあらゆるタイプの方が私たちのシェルターや世界の医療団事務所「ハナマイ」に集っています。それに伴い、スタッフの疲労が深まっています。日中に活動を手伝ってくださる方を募集中。

ボトムアップシェルターでは

越冬期間(その前後も含む)のボトムの水道、ガス代が通常の2~3倍に達して痛手でした。現役路上生活者の入浴に活用されたので必要な経費であったといえますが、財政危機も現実なので、シェルターを存続させられるかという不安は尽きないのが現状です。

路上生活の方を泊めるので、毎年夏になるとダニなどの虫が発生するのは避けられません。バルサン焚きなどを定期的に行っているが、最終的には温床となる布団や衣類を総入れ替えしています。

経費節減のため、食材の購入時など今まで以上に節約を試みっていますが、これがなかなか難しいです。ただ、セカンドハーベストからの食材(ラーメンやパスタなど)を定期的にもらえるようになり、大いに助かりました。

冬期、利用者・支援者の間で風邪が流行しました。手洗いなどを呼びかけたり除菌対策などを行いましたが、狭い空間に集まるのでこれも対策が難しいです。深刻な伝染性の病気発生時はどう対応したらよいか、危機感があります。

女性「ホームレス」の支援の難しさを痛感しました。

訪問看護ステーションKAZOCが今年から稼働して、継続的に支援している方の訪問相談活動をかなり代わっていただくことができました。

坂内孝雄 吉野朱美

2013年度 役員 全員が留任

代表 理事	森川すいめい(医療班)
副代表理事	清野 賢司(事務局)
理 事	坂内 孝雄(生活応援班)
監 事	稲見 得則 (ほっと友の会)





東京プロジェクト

TENOHASI、世界の医療団、べてぶくろで協力して行う東京プロジェクトも開始から3年が経過し、今年度も活動を行っています。2011年度には、池袋あさやけベーカリーが誕生しましたが、2012度は訪問看護ステーションKAZOC（かぞっく・2013年2月）とグループホーム「しずく」（2012年6月）が誕生し新しい仲間のみなさんとともに活動を地道に広げています。またあさやけベーカリーから派生して「要町あさやけ子ども食堂」も誕生しました。

2012年度は独立行政法人福祉医療機構より3団体共同で1000万円近くの助成金をうけることができ、今までにない規模での活動を行いました。

- ・活動担い手を増やすためもやい・てのはし・世界の医療団でボランティアセミナーを開きました。（2012年8月）
- ・東京プロジェクト共同での報告会（2013年3月）を開催したり、報告書の発行をしました。
- ・限られた人数のスタッフの疲弊が課題ですが、あらたな活動の担い手が増えたことで、コアメンバーが休んだり負担を減らすことができています。スタッフの体制については継続して考える必要があります。
- ・日中活動とスタッフの拠点「ハナマイ」が大塚へ引っ越ししました。広い拠点を手に入れたことと、日中活動の担い手が少しずつ増えたことで、平日は毎日プログラムが行われています。6月から六郷さん主催の「ワンダフルキッズ」が合流し、学習支援も行います。
- ・「東京プロジェクト」の活動が評価され、精神障害者自立支援活動賞「リリー賞」を受賞しました。（2013年3月）

活動の詳しい内容については、東京プロジェクト活動報告書「世界との対話」（山北輝裕さん編集、ルポ「東京プロジェクト」も担当）をご覧ください。報告書の配布先も募集中です。

- ・活動の中心の一人、小野田さんが就職され卒業されました。今までありがとうございました。
- ・みなさまにご理解ご協力をいただきありがとうございます。中村あずさ

池袋ほっと友の会（お茶会）

<昨年度を振り返って>

今年度も、カトリック池袋医療班から運営費をご寄附いただきました。
この場をかりて、感謝申し上げます。

お茶会で出す手作りお茶菓子は、その提案&実行者であった、なべこさんが海外に行かれたため、2012年5月から担当者不在となりました。かわりにいろいろなボランティアさんが、作ってくださるようになり、新しいつながりをありがたく思っています。

スタッフの平均参加者数が3.3人と、マンパワー不足な1年でした。新しいスタッフを確保しなくては…と思いつつ、そこまで手をまわしきれずに1年たってしまいました。

<継続してできたこと、新しくできたこと>

2012年度も、毎月、皆で集まり、思いをわかちあう場をつくり続けることができました。新しい試みとしては、昔、画家になりたかった、というおじさんがいたので、一度、描画をワークに取り入れてみました。新しい挑戦で、楽しめましたが（そして、その画家になりたかったおじさんは、さすがにとっても上手でした！）、時間がかかってしまうのが難点でした。また、新しく頼りになるスタッフが1人増えたのには感謝です。

<課題>

1) お茶菓子つくってきてくださる方を募集します。

1年に1回でもいいので、ほっと友のおじさんたちのために、お茶菓子をつくってきてくださる方を募集します。

2) 新しいスタッフの確保ができるよう引き続き、努力していきます。

現在、コアスタッフは4人です。1人でも休むと、ほかの人に負担がかかってしまうので、5人～6人はコアスタッフが確保できるといいな、と思っています。

<心に残ったエピソード>

○もうかれこれ6年以上のお付き合いになるおじさんが「これからも、俺をよろしくお願いします」と少し照れながら、お話会で話されたのが印象的でした。見捨てられ不安の強い方で、最初の頃は、ほっと友がいつかなくなってしまうのではないかという心配をよく訴えられていました。その方がこういうことをおっしゃるようになったというのは、ほっと友が変わらず、安定してあり続けるものとして、彼の心の中にできあがったんだな、というのを感じさせられる出来事でした。路上時代からはじまって、今は、アルバイトをしながら足りない分、生保を受給して生活を送っておられます。去年は、娘さんとの関係を回復し、孫の顔を見ることもできました。「忘れられていなかった、っていうのは、なんていうか、安心するね」と語っておられました。長い時間の中で、少しずつ、ご本人も、ご本人を取り巻く人間関係も変化していく喜びを感じます。

○私たちの中で大人気の純粋で心のきれいなIさんですが、なかなか福祉につながる気配はありません。以前、生保にかかったことがあるようですが、お金の管理もうまくできず、ギャンブルに使ってしまったり、困っている人にあげちゃったり…という様子だったのかな、と言葉の端々から推測しています。ご本人は「路上に善い人はいない。だから自分が善い人になってやるんだ！」と決意を語っておられます。スタッフとの関係はできたので、いつかIさんが、もう一度、チャレンジする気持ちになってくれたらいいな、とひたすら待っています。もっとアクティブにかかわってあげたい気持ちもありますが、月1回のほっと友の中でできることを地道に続けていこうと思います。

稲見麻里

マッサージ班

できたこと：

- ・2012年度も毎回マッサージを続けることができました。
今まで中止していた雨の日も、木の下にビニールシートを張り実施できる体制ができました。
張ったことは3回程ありましたが、今のところ雨の日の利用者はいません。寒くてマッサージどころではないそうです。
- ・気温が低く風が強いとき、まわりにブルーシートを張り巡らせて風除けを作ってみました。あまり効果はありませんでした。

感謝したいこと：

- ・目の不自由な橋本夫妻が遠いところから参加してくれること。橋本さんは、みかん、使い捨てカイロなど、ちょっとしたお土産も用意してくれます。
- ・炊き出しのスタッフが、利用者の情報を教えてくれること。また、7時まぎわの利用者のために炊き出しの出前をしてくれること。

心に残ったエピソード：

- ・以前ボランティアとして参加していた、初対面の人とスムーズに会話することが苦手で、なかなか仕事に就けなかったマッサージスタッフが、接骨院に就職が決まり炊き出しに来なくなっていたから1年余りのある日、てのはしに、元気で仕事を続けています、との知らせが入ったとのことです。一緒にボランティアをしていたマッサージスタッフ一同、嬉しかったです。 加藤毅

鍼灸班（TRUST 東京路上鍼灸チーム）

振り返って

- ・炊き出しの日には公園の池に向かって右側にテントを張って鍼灸治療を実施しました（雨の日以外）。この場所だと少々風でもテントが固定できません（お正月の強風時にはさすがにダメでしたが…）。雨の日にも一度実行したのですが、テントの設営や雨漏りは改善可能としても、終了後に濡れたテント等の置き場や乾かすのに苦労しました。やはり雨天中止にしたいと思います。
- ・スタッフの数は変動気味ですが、参加鍼灸師が少ない時は治療時間を延長することにより何とか対応しています。最近は治療が終わるころには炊き出しの終了ミーティングも終わっていることもあり、そんな時はなんとなく寂しいですが、撤収の作業は公園在住の方等が手伝ってくれていますので大丈夫です。

「シャボンで一服」

- ・試験的に継続しています。煙草を吸わない方も興味を持って近寄って来て頂き、シャボンを通してフランクにお話し、体調もお聞きすることも出来ればと思っています。

TRUSTとしての見聞ツアー

- 2012年4月東京・山谷へ・・・（18名で実行）
- 2012年5月大阪・釜ヶ崎へ一泊二日・・・（12名で実行）
- 2012年8月福島市・南相馬市から石巻市・女川町・・・（1日目20名、2日目21名で実行）
- 2012年8月～11月双葉町避難所（埼玉県加須市旧騎西高校）へ鍼灸治療

問題点

- 1、【経済的問題】共同で経営している東池袋四丁目はりきゅう院経営（経済）上の問題はずっと抱えたままです。後一年、後一年と言う感じで継続していますが、とりあえず2013年度はこのまま継続し、2014年度以降については近くなってから考えたいと思っています。
- 2、【人的問題】やや改善してきましたが、同時に患者さんの数が増えてきましたので、引き続き鍼灸師の募集をして行きたいと思っています。可能ならベッド4台で治療が出来ればと思っていますが、鍼灸師の人数次第ですので当分2台か3台となりそうです。テントの設営やベッドの準備は、スタッフ数が増えたのと、てのはしの他の班の方や公園在住の方が手伝ってくれていますので、今のところ順調です。 石崎卓

池袋でWAKUWAKU!!

特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

代表 栗林知絵子
事務局長 天野 敬子

この8月1日に、特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワークが誕生しました。

任意団体としての発足は1年以上前にさかのぼります。TENOHASIは「おとなの貧困」ですが、WAKUWAKUは「子どもの貧困」に取り組んでいます。

地域の子どもを地域で見守り育てたい、そんな地域住民の思いが集まったネットワークです。一昔前は、地域に「おせっかいオバサン」がいて、お醤油の貸し借りなどコミュニティが機能していました。地域のつながりが希薄化した今の時代、「孤立」が問題を深刻化しています。そこで、WAKUWAKUでは「おせっかいオバサン(オジサン)」の発掘につとめております。気になる子がいたら、声をかけ、地域の居場所に連れていこう!

そんな大事な居場所のひとつが「要町あさやけ子ども食堂」です。

「子ども食堂」は、TENOHASIでおなじみの「あさやけベーカーリー」の山田さんの「こんなことやってみよう」というつぶやきから始まりました。山田さんの「こんなこと」に「それ、おもしろそう」「料理は私にまかせて」そんなWAKUWAKUしたおとなが集まってきて実現したのです。



毎週第一第三水曜日の17:30~19:00、子どもだけでも入れる食堂です。一食300円で、子どももおとなもワイワイおしゃべりしながら、ともにご飯を食べています。

一軒家の中を幼児から高校生ま

でが楽しそうに走り回って遊んでいます。悪いことをしたらどの子も叱られます。そんな子どもたちを山田さんがにんまり笑いながら見守ってくれています。

メニューは毎回違います。のんびり料理長こと千春さんのバランスのとれたからだに良いレシピです。余った食材をもってきてくれる方もいます。調理を手伝う子どももいます。

そんな「子ども食堂」から新たな物語が始まりました。外国籍の子どもへの日本語教室です。「子ども食堂」の向かいのアパートに暮らすネパール人家族が山田さんの声かけで、「子ども食堂」にやってくる、歌を披露してくれました。そのご家庭の小学生の子どもが日本語がよく分からなくて学校で困っていることが分かり、以前から日本語支援を申し出てくださったって先生とつながることが出来ました。毎週、水曜日の午後、数名の外国籍の子どもが日本語を教わっています。

無料学習支援「池袋WAKUWAKU勉強会」も始まっています。宿題や分からないところを大学生のお兄さんお姉さんや地域の方が、教えてくれます。



WAKUWAKUの理事長の栗林さんは、池袋本町プレパークの会の代表として10年活動をしてきました。TENOHASIの夜回りでもお馴染みですよ。

それでは、ここからは栗林さんにプレパークのお話をしてもらいます。(天野敬子)

それではプレパークの紹介です。

池袋本町プレパークは、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに発足した遊び場です。毎週水曜金曜の14時~18時、土曜日曜祝日は10時~18時に開設しています。プレパークには常設の遊具はなく、例えると「ドラえ

もん」に出てくる空地のような何もない原っぱです。子どもが「土 草木 水 火」などの自然に触れ、「やってみよう」と思うことを可能な限り尊重したいと考えています。子どもの「やってみよう」ことにいつも寄り添うのは常駐プレーリーダーや、地域の方々です。プレーリーダーは子どもの目線に近い大学生が主に担っていて、あさやけベーカリーのマドンナ、中村あずささんのような存在です。プレーパークを応援している地域の方は、町で有名なおせっかいさんが勢揃いです。

2年前、困っている子どもをほっておけない私は、プレーパークで出会った中学生の「高校に行きたい！」という希望に応えました。学生プレーリーダーを巻き込み、毎日うちで学習支援を続け高校合格が叶ったのです。この出来事は遊びも貧困問題も根っこは同じ「子どもの権利」を接点に、地域の人と人が繋がりがWAKUWAKU ネットワークが誕生したのです。子どもが安心して遊び、学び、暮らす環境を地域でサポートする ネットワークです。

実はその頃、プレーパークは大きな課題を抱えていました。現在のプレーパーク地に区立中学新校



舎が建設される予定で、プレーパーク事業はそのまま頓挫しそうな状況でした。ところがWAKUWAKUで繋がった仲間がプレーパークの必要性を訴え、豊島区はプレーパーク代替地を購入したのです。奇跡のようす！

プレーパークで出会った子どもサポートの輪がWAKUWAKUに広がりました。WAKUWAKUから誕生すべく新たなわらしべプレーパークは、多様な人が出会い、いっしょに作り、食べて、遊び、笑う：子どももおとなも豊かな「ななめの人間関係」を紡いでいけたら素敵ですね。

プレーパークの夕暮れ時「あく、楽しかった」と汚れた顔で満足げに帰る子どもは、まるで昭和のころと同じです。

もう少し涼しくなると、ひろばのあちこちにヘンテコな基地（おうち）が出現します。廃材、ビールケースやドラム缶を骨組みにして、毛布や布団で覆われた基地ができるのです。「基地を創りたい！」と思うや否や、重い木材やマットレスを仲間と心ひとつに運び出す姿は、これぞ生きる力！内面から湧き出る力に突き動かされる仲間と共に、心地よい居場所を完成させます。基地の中ではカードゲームをやったり、家から食べ物を持って老若男女の子どもでうちごっこが始まったり！子どもの時間が流れます。

学校や家庭では、勉強やスポーツの物差しで評価され、物や力によって満たされる子ども、満たされずいじめの加害者になる子ども。他方、ネグレクトや孤立で苦しむ子どもや、いじめの被害者となる子ども。昨今の社会のしんどさをそれぞれ背負う子どもでも、プレーパークでは「意味のない遊び」を通じ、元気になっていきます。

たとえば捕まえたトンボの数

や、木登りの高さで「すげえ！」と子どもたちからアツイ視線を集める子ども。その姿をじっと見ていた小さい子が次回はこっそり模倣して、挑戦しては安心して失敗することを繰り返す。幼児期のこのような日常、つまり人と人との繋がりと充実感が、にんげんの根幹を太くして自尊心や肯定感を育み、やがて持続可能な地域と自治を実現すると信じています。

プレーパークは、大切な「子どもの居場所」「親子の居場所」であり続けたいです。

さて、WAKUWAKUの新たな夢は：「おせっかいバッチ大作戦」です。次号てのはし会報でも、「おせっかい缶バッチ作戦会議」開催を約束していただけますでしょうか？（栗林知絵子）



最低限度の文化的生活

日本国憲法第25条

「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」

「ホームレス文化」探求の試み！ その3

登場人物の紹介

沖元：謎のアーティスト。女性。得意技はむちやぶり。惣流・アスカ・ラングレーの「あんた馬鹿!？」は好き。

久保：謎の当事者。男性。トマトは無理。

坂内：謎の支援者。男性。ヤマト世



代。

沖元 よろしくお願いします。今日は久保さんのお部屋がちょっと使えませんので、ジョナサンに来ています。えと、久保さんはTENOHASIと長くて？

久保 2010年の3月から・
・
沖元 じゃあ、3年くらい・

中略

沖元 えと、状況とか・・ちよつと話して頂ければ・

久保 近況と言えれば最近、料理教室に来てくれていたニコラさんという人(世界の医療団の関係者)が9月からもう来てくれないうちと申すことであつとシヨツクを受けています。

沖元 ハナマイで会いました。フランスの方ですよね。フランス料理とか・

久保 月に1回来てくれて料理とか教えてくれてたんですけど、なんかお医者さんになるって言うんで、フランスの大学に行くかわからないですけど、医者をめざして。で、もう9月からきてもらえないんで・

中略

沖元 9月でねー。でもお医者さんになるならね、旅立ちを祝って・・でも私もダイケアにいた時に仲のいいスタッフが英語の先生になりたいって言って辞めたりとか、そういうときやっぱさびしかったですね。あの、唐突なんですけど、今日はこの企画でマンガを描こうってことなんですけど、久保さんは好き



なマンガとかは？

久保 あんま、マンガみないです。昔は読んだけど・

沖元 昔は、どんな？

久保 「シティ・ハンター」って言う・

沖元 あー、おもしろいですよね。冴場遼ですよ。アニメとかでもやって・好きな人いましたよ。

中略

沖元 私は、ブラックジャックとかでしたかね。え、坂内さんは？ すきそうですね、マンガ。

坂内 え、僕も途中までですよ。マカロニほうれん草とか、ルパン三世とかあの辺で止まっています。

沖元 かなり過去ですよね。
坂内 ガンダムも途中までしか見てない。

沖元 私もガンダムとかは、そんなになんかでもガンダムは私らの下の世代って言うか。

坂内 宇宙戦艦ヤマトはモロ見てたけど。

沖元 この辺、ヤマト世代、下がガンダム世代。

久保 エヴァンゲリオンなんてさっぱりわからない。

沖元 あー、私、あの出てくる女の子の、アスカって言う女の子の「あんだ馬鹿!？」って言うのがすごく好きで、まあ、それだけなんですけど。

坂内 見てるじゃない。

沖元 そう、だからちよろっと見てる。そう、それでまあ、ちよっとマンガを描いてみませんか？

坂内 どうとつだね。

沖元 なんか、アイデアとかありませんか？

久保 絵、苦手なんで・・・

沖元 じゃあ私、絵、かくから。

坂内 ・ ・ ・ ドリンクとつてきますか？

中略

いよいよ4人で四コママンガの作成

沖元 じゃあ、3人が出てくることにしましょうか。家庭ネタってのはどうですか？疑似家族でもいいし、なんか、こんな感じだったらか。だから坂内さんが子どもだったらか、久保さんの。

坂内 うーん、家族マンガってこと。

沖元 そうそう、どうでしょう。

坂内 クッキング

沖元 うーん、まあ何でも、大工でもいいし。久保さん、お父

さん、息子

さんと息子

とどつ

ちがいい

ですか？

久保 も

うちよつ

と思いつくことか

ら・・・

沖元 そうか、ちよつとやりにくい

ですか？強引だったかなあ。

「思い出」



このマンガは実行しなくてもいいんですよー(久保)

どものころに好きだった動物とか。

久保 あー、子どものころの好き嫌い、食べ物好き嫌い、少年野球をやっている、試合があるたびに監督の所に行ってご飯を食べてたんですけど、みんなでご飯を食べる時、みんなが好き嫌いがあるので・・・食事が終わると自由時間なんです。僕だけそのトマトと加太いつきらいで、食べるまで自由時間も

坂内 結局どうしていたんですか。

久保 結局泣きながらトマト食べていました。

沖元 ああ、じゃあそういう話にしていいですか。その久保さんが主人公で・・・ (この後怒濤のデイスカッションの後四コマ完成。タイトルは久保さんが決めました)

忘れえぬ人 ④

今は納骨堂にて息子さんの返事を待つ幸田さんのこと

今年も8月10日に恒例の「夏まつり」の中で慰霊祭が行われました。今回の慰霊祭の中で祭られた中の一人に、今年の4月に亡くなった幸田さん（仮名）という方がいらっしゃいました。

初めてお会いした当時、幸田さんは66歳で、私と同じ年のせいか何となく人生の同志のような感覚でしたが、出会って4年ほどで70歳でお亡くなりになりました。



彼の人生は正に波乱万丈でしたが、通常、波乱万丈というといいい時も悪い時もあるものですが、彼に限っては悪いことだらけの波乱万丈でした。

幸田さんは4年前には路上生活をしており、役所でホームレス用に置いてあるクラッカーをもらって食いつないでいました。

私が彼をみかけたのは役所からフラフラしながら出てきて、ヨロヨロ歩いている時でした。脳梗塞の後遺症によくみられる独特の歩き方で、小刻みに少し歩いてはとまり、またヨロヨロと歩き出す感じでした。

竹細工のようにやせ細り、着ている物もボロボロでいつ倒れてもおかしくない、というか、倒れたら二度と起き上がることはないような、正に、末期的な雰囲気の人でした。私が声をかけても目はうつろで「もうどうでもいいよ」と捨て鉢のようでした。私は彼を説得してそのまま福祉事務所に行き、入院させてもらいました。

しかし、彼は入院して少しでも元気になるとすぐに脱走してしまい、その後も、病院、施設、寮なども入ってはすぐに出てしまうことの繰り返しで、ついに福祉事務所からも見放され再び路上生活に落ちてしまいました。

私は他の支援者と協議して、このまま路上では幸田さんは時間の問題で死んでしまうのでTENOHASIのシェルターに入ってもらい今後のことを考え

ることにしました。

スタッフのBさんが中心になって、シェルターに入った幸田さんのお世話をしました。お世話と言うより介護でした。当時、シェルターには風呂がありませんでした。

*因みに今のシェルターには風呂がありますが、このシェルターの運営資金は国からの助成金でした。しかし、その助成金も3年を経過して、今年で終わります。従って、この先の資金的な見通しは全くなく、今後の継続に関し大ピンチに陥っています。このシェルターはどこからも見放されてあとは路上で死ぬしかないという人を救うためのものであり、年間にして50人程度の人がこのシェルターで野垂れ死にを免れていました。

さて、幸田さんですが、まずはドロドロで垂れ流し状態の悪臭を放つ体をきれいにするためにお湯を沸かし、清拭から始めました。私は、裸になった幸田さんを見て一瞬ぎよつとしました。背中から二の腕にかけて大きな入れ墨がありました。もっ

とも、お年のせいか、すっかり色褪せており、年老いたやくざのなれの果てのような哀れさを感じさせました。

その背中をBさんが丁寧に温かいタオルで拭いており、幸田さんは気持ちよさそうに目を閉じていました。その後、幸田さんは泊まり込みのスタッフの介護を受けながらしばらくシエルターで寝泊まりをしていました。

幸田さんも優しいスタッフの手厚い介護に段々に心を開き、少しずつ、自分のことを話しました。すると、何と自分は前科10犯と言いました。親とは小さい時に死に別れ、小学校もろくに行っておらず、生きて行くだけが精いっぱいの中で、つい悪い道に入ってしまったとのことでした。

それに重篤のアルコール依存症で身体は蝕まれ、脳梗塞で3回も倒れているとのことでした。

私は彼の入れ墨を見ながら、彼の話はきつと本当だろうと思いなながら、このような反社会的な存在だった幸田さんを私たちがするようなボランティアがどこまで支援すべきか考え込んでしまいました。

世間では「こんな奴はほっとけよ、自業自得だろう」と言うかもしれない。

しかし、今の幸田さんは心身に衰弱しきっており、見放せば死ぬしかない人です。まして、TENOHASIの理念は目の前の困窮者に対し、誰であれ差別なく援助することを標榜している団体です。

私としてはいろいろ葛藤がありました。やれるところまでやろうと決めました。

ところが、Bさんは私のような葛藤はなく初めからどこまでも寄り添う気持ちでした。

更に、驚いたことに、幸田さんをアパートに住めるようにして、自分でお世話したい、緊急時は自分が泊まり込んでもやるという強い気持ちを私に伝えて来ました。また、他の数人のボランティア・スタッフも自分たちも幸田さんを支えて行きたいと申し出てきました。

私は幸田さんのように身体的には誰かが常時付き添っていないくてはすぐに転倒したり、或いは、社会に上手に馴染めないことや、対人関係に困難を抱える

人であることを考えると、幸田さんの一人暮らしなど不可能に近いと思っていました。

しかし、私は彼らの燃えるような熱意に反論の余地もなく、彼が居宅保護を受けられるように行政と折衝を始めました。

私は福祉事務所に何度か行き、「幸田さんをTENOHASIとして全面的に支えて行くので、アパートの居宅保護にして欲しい。何かトラブルがおきれば私たちが対処しますから」とお願いしました。

幸田さんのことをすべて知り尽くしている役所は、最初は難色をしめしていましたが、こちらの勢いに押される感じで許可してくれました。役所がTENOHASIを随分物好きな人たちと思っただか、熱心な団体と思っただか定かではありませんが、そして、許可がおりるとすぐにBさんが自分の家のすぐ近くにアパートをみつけて幸田さんを住ませました。

幸田さんがアパート生活を始めるのと当然のように次から次へとトラブルが発生し、Bさんはその対応に追われていました。

担当のケース・ワーカーも大変な人を抱えたと思いきや緊張したようで、早急に介護の支援体制を整えてやり手のケアマネを用意してくれました。

とはいえ、幸田さんはケア・マネジャーのいうことを素直に聞く人でなく、介護ヘルパーを追い返したり、毎日食事もせず酒浸りの日々を送り、また、脳梗塞の影響で認知症も発症して、部屋で大声をあげたりして近所から苦情が入ったりしていました。そのたびに、Bさんが飛んで行って火消しをしていました。役所の言うことは聞かない幸田さんですが優しいBさんの言うことには従っていました。

しかしながら、そんな生活も長く続かず、栄養失調のためか結核を患い、清瀬でしばらく療養生活をしていました。退院後は徐々に体力も衰え、在宅での介護も無理とのこと。地方の療養施設に入れられてしまいました。その後は、寝たきり状態でした。

私とBさんが幸田さんの最後のお見舞いに行ったのは彼の亡く

なる3ヶ月前でした。その時は、既に、認知症も進行し、ほとんど彼の言いたいことが分かりませんでした。ベッドで寝ている幸田さんは、体をよじるようにして「痛い、痛い」と泣きそうな声で私たちに訴えていました。が、体を起すことも出来ず、私たちにはどうすることも出来ませんでした。

それから3ヶ月後の今年の4月に、「幸田さんが千葉の病院でお亡くなりになりました」と役所から連絡がきました。私は彼の死を聞いた時にご冥福を祈ると同時に、「彼はこれで楽になった。もう苦しまなくていい」とほっとしたものでした。

担当ケースワーカーは直ちに、幸田さんの戸籍から親族を探したところ息子さんがおられることが分かり、すぐに連絡を入れましたが息子さんからの返事がありませんでした。やむなく、5月4日に幸田さんは火葬に付され、お骨になりましたが、それでも息子さんからの返事がありませんでした。

このように親族がいらっしゃ

るということが判明しながら、引き取りの返事がない場合は、役所はその遺骨を納骨堂に1年間保管し、その後、県外の霊園の合祀墓にお骨を納めることになっていきます。

さて、幸田さんのケースは正に、親族がいながら連絡のないケースですので、彼の遺骨は来年の5月3日まで納骨堂で息子さんの返事を待つことになりました。

しかし、ここでちよつと複雑な問題が発生しました。実はTENOHASIの代表理事である精神科医の森川さんが「漂流老人ホームレス社会」という単行本を最近、朝日新聞出版社から出版しました。この本には、池袋のホームレス支援活動が事細かに描かれています。

ちよつとこの頃、たまたまこの本を読んだ私の知り合いで、京都のお寺の副住職の人から連絡があり、「森川さんの本を読んですつかり感銘しました。宗教学者として私でも何かお役に立てることが出来ないか考えました。お亡くなりになった方で、ご家族のおられない方のお骨を引き取り私の寺の供養塔に納めて懇ろにご供養して差し上げる

のはいかがでしようか？」とのことでした。この副住職は私から尊敬している方だけにとっても有難く思いました。

ですから、もし、幸田さんの遺骨の引き取り手がない時は、幸田さんを京都のお寺にお願いする第一号になってもらおうと京都の副住職と話し合いしていました。

ところが前述のように息子さんがいらつしやるのが分かったものの、息子さんのご返事がないので、幸田さんの遺骨は葬儀社の納骨堂に1年間置かれこれになりました。

保管されている来年の5月3日までに、息子さんが幸田さんを受け入れて遺骨を引き取られるのがベストではありますが、でも、それが叶わないとしても、京都の由緒あるお寺の墓地で永遠の眠りにつくのも幸田さんにとつても悪くないかもしれませ

ん。最後にあります。幸田さんは何か怖い人のようなイメージを与えてしまったかもしれませんが、実はちよつと違います。

彼は自分の保護費の内から1000円とか2000円を困った人やTENOHASIへとちよくちよく寄付していて、根は結構、優しい人の方でした。

それと彼には文学的な才能があるようで、入院している時も、私に紙と鉛筆の差し入れをよく要求していました。彼は詩が好きで、演歌調の歌詞なども目の前ですらすらと書いて私にお土産にもたしてくれたものです。

幸田さんの荒れ狂う人生の中に、彼がこのような一面を持っていることを見出した私は、正に、砂漠の中にオアシスを見つけたようなほつとした気分になったものでした。

もし、また、彼が生まれ変わってくるものなら、今度こそ、そちらの分野で活躍し、世の中の人を喜ばす人になって欲しいものです。

ここに、彼のご冥福をお祈りしたいと思います。

資金・物資のカンパありがとうございました

2013年3月23日～2013年7月31日

敬称略・順不同

*事務局の手違いでお名前が漏れている方がいらしたら、ご連絡ください。

個人情報保護のため
WEB版ではお名前
を割愛しています。

はっぴいめーかー大募集

□ ボランティア

○生活応援活動 主に平日の日中

生活保護申請の同行・入院者へのお見舞いなど

○炊き出し 毎月第2/第4土曜日

調理班（*文京区のお寺集合） 11:00～18:00

非公開ですのでメールや電話でお問い合わせ下さい

公園班（東池袋中央公園集合） 16:40～20:30ごろ

鍼灸・マッサージ 17:00～19:00

医療相談 生活福祉相談 18:00～19:30

ほっと友の会（お茶会・第4土曜日のみ） 16:30～19:00

○おにぎり配布と夜回り

毎週水曜日（池袋駅前公園集合） 21:30～22:30

TENOHASI のボランティアはアポなし・参加できる時間でOKです。

□ 活動資金カンパ

郵便振替 00190-8-259686 特定非営利活動法人TENOHASI

振込 ゆうちょ銀行 019(セトイキョウ)支店 当座 259686 トクヒ)テノハシ

□ 物資カンパ

衣類（これからは秋冬物を。スーツと女性ものは不要）・靴・毛布

食材（米・缶詰など）

【送り先】〒177-0045 練馬区石神井台6-1-28 清野賢司 TEL090-1611-1970

（夜間指定でお願いします）

みなさま、いつも本当に有難うございます。スタッフ一同、心より感謝致しております。

しかし、支援対象者が急増しており、財政に余裕はありません。

さらに3年間受けてきた独立行政法人福祉医療機構の助成金は打ち切り。

資金が枯渇して倒産という事態も冗談でなくなってきました。

どうぞ、活動資金のご支援をよろしくお願いします。

特定非営利活動法人TENOHASI

会報第26号

2013/9/8発行

□ ホームページ <http://tenohasi.org/>

□ メール tenohasi@yahoo.co.jp

発送元: TENOHASI事務局

〒177-0045

練馬区石神井台6-1-28 清野方

NPO法人TENOHASI

TEL 090-1611-1970

（事務局長 清野賢司）

